

Q：医療費無料化を高校生まで拡大しては  
A：高校生には健康維持対策の必要性が薄い

Q：ピロリ菌と胃がん対策の充実は  
A：死亡率減少効果を示す証拠がない

Q：高齢者の交通安全対策は  
A：運転免許証の自主返納・歩行者向け夜光反射材の無料配布、啓蒙活動の実践

Q：グリーンパークへの車の配備を  
A：年1回町の福祉バスによるグリーンパークへの送迎を継続



樋坂 里子議員

**医療費無料化を高校生まで拡大しては**

**質問** 本町は、早くから小学生の医療費の無料化を行っている、子供を持つ親に大変喜ばれている。この取組みを高校生まで拡大しては。

**町長** 以前に同様の質問をされているが、国保加入者で16歳から18歳までの医療給付状況をみた場合、この年齢層に対して健康維持のため取組みを行うことの必要性が薄いと回答している。現状においても考えに変わりはない。

**ピロリ菌と胃がん対策の充実について**

**質問** テレビ等で胃がんの原因は、胃にピロリ菌があることが一因といわれている。

ピロリ菌は、親などから子供に伝わるようで、小さいうちに検査をして薬で対応できるようだ。小学校高学年から中学生のうちに検査をして、胃がんの撲滅に対処してはと考えるが、毎年1学年ずつでも無料で検診してはどうか。

**町長** 感染の主要因である井戸水等の常用が皆無に近い状況であることから、小中学生のピロリ菌の陽性率は、極めて低いと考えられている。現在、厚生労働省は、がん検診のあり方に関する検討会を設置し、市町村が実施するがん検診の内容、受診率の向上策等の検討が行われている。ピロリ菌検査については、死亡率減少効果を示す証拠がないと判断され、この検査を推奨しないとする方針を示すとともに、新たな胃がん検診方法を調査検討するとした。本町としては、この国や北海道の動向を踏まえた中で、一体的に胃がん予防対策に取り組んでいく。

今年度から、胃がん等、他のがん検診の自己負担額を500円(フロンコイン)に減額し、がん検診を受けやすい体制を構築するとともに、が

んの早期発見及び早期治療に向けての対策を重点強化したいと考えている。

**高齢者の交通安全対策について**

**質問** 本町は、高齢者の運転免許証の返納にあたり、パスポート的な証を出しているが、効果はどうか。また、高齢者の交通安全対策として、免許証の返納の時に、交通費の一部を助成するバス券かハイヤー券を発行してはどうか。

**町長** 町としては、平成24年から運転免許証を自主返納した方に住民基本台帳カードを無料で交付している。カードの交付は、現在11件にとどまっているため、この制度による効果の明確な回答は出来ないが、少なくとも運転をして交通事故の原因者となることはない。

免許返納時に交通費の一部を助成するバス券やハイヤー券を発行することは、もともと運転免許を持っていない高齢者の方や、自主返納ではなく有効期限満了により免許証を更新しなかつた方との公平性を欠くものと考えており、

実施しない。また、車を運転しない方の移動手段として、地域公共交通や福祉バスを運行しているの、それらを活用していただければと考えている。

**グリーンパークへの車の配備を**

**質問** バス路線より遠いところに居住し、車のない高齢者が、グリーンパークの温泉に行くために、行政区ごとに月に1回程度、グリーンパークのバスを運行してもらい、その経費を助成してはどうか。また、それに併せて、グリーンパークの入浴券の発行はできないか。

**町長** 送迎バス助成の件は、高齢者の福祉支援として、単位老人クラブごとに年1回、町の福祉バスによるグリーンパークへの送迎を行っており、現在、町内送迎車両への助成を行う考えはない。

高齢者に対する入浴券配布は過去に実施したが、事業の目的に反する入浴券の使用が顕著となり、発行を取り止めた。